

[第868回ゼミ報告] 2023年11月17日号

我ら基礎研の理事会は「イスラエル・ハマスが戦争を即時停戦することを強く要求する」との声明を出した。が、ロケット弾が飛び、病院へ突入…

11月8日のゼミは、柄谷行人『力と交換様式』の第3部「資本主義の科学」第1章「経済学批判」を小野さんの報告で行いました。交換様式の観念を得たのは『資本論』であり、交換から生じる観念的な「力」を見た。初期マルクスは「疎外論」であるが、後期マルクスは「疎外論」を退けた。商品の価値は生産ではなく交換において「商品の内在的精霊」・「物神」を見出し、商品と商品との交換、さらに商品と貨幣の交換を通じて物神が出現する。国家と資本が「社会主義を包摂」し、ヨーロッパ各地で資本＝ネーション＝国家が生じた。商人資本・高利貸し資本は資本主義以前にあったが、資本主義では欠かせない重要な役割を果たし資本物神を株式資本が高めた。株式資本は社会的に結合された資本であり、株式会社は資本の集積・集中に適していた。株式資本の拡大で国家の役割が目立たず、交換様式Bに対するCの相対的自立が成立した。ただし、「労働力商品」は義務教育・兵役で国家の助けなしに成り立たず、リカード左派による「剰余価値の搾取」の科学的説明はマルクスの『資本論』によって始められた。ホブズは交換様式B・社会契約であり、マルクスは交換様式Cの社会契約である。報告者からは「物神」・交換での観念的「力」に対して、『資本論』で財が価値を持つのは抽象的人間労働の物質化と反論し、さらに情報と物質との関係の問題は重要だと。

討論では、疎外論はマルクス初期だけでなく後期でも続いている。株式会社の起源は特定のところ、鉄道・航海であり、産業資本主義段階ではまだまだ中小資本が主流である。「ヘーゲルの弟子」とは『資本論』における下降と向上に示されている。ここでは階級論として労働者が出てこない。会場参加は小野さん・川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さんの7名でした。

* 11月22日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 4 5分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 842 3624 4872 パスコード: 403024

* 11月22日から、レーニン『帝国主義論』が始まります。新刊本は光文社古典新訳文庫、古本は大月国民文庫、岩波文庫などが手に入ります。

* 『帝国主義論』は当ゼミでは、1978年12月～1979年4月まで、さらに1982年12月～1983年6月まで9回行っており、今回40年ぶりです。

***** ゼミ日程 *****

11月22日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

レーニン『帝国主義論』序文・1生産集積と独占体 報告竹内さん

12月13日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

柄谷行人『力と交換様式』第3部2章 資本＝ネーション＝国家 報告川口さん

12月27日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

レーニン『帝国主義論』2.銀行とその新しい役割 報告者未定

その後 2024/1/10, 1/24, 2/14, 2/28, 3/13, 3/27 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso